2023　年度 授業計画(シラバス)

学　科	日本語学科(昼間部1．5年制)	科 目 区 分	応用分野	授業の方法	講義
科 目 名	問題集(中級)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	40 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年	学期及び曜時限	後期	教室名	502教室
担 当 教 員	瀬野　幸子	実務経験とその関連資格			

《授業科目における学習内容》

日本語能力試験N3に合格できるように、文法、読解、聴解、語彙を満遍なく学び、日本語能力試験対策問題や日本語能力試験に似た問題を解くことにより、日本語理解力を育成する。日本語能力試験N3に合格する為に、解き方などの技術を学ぶ。問題集を解くだけではなく、復習を入れながら、より多くの問題演習を行い、日本語能力試験の形式になれるようにする。

《成績評価の方法と基準》

1. 試験:70%
2. 出席:20%
3. 平常点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

使用教材:日本語能力試験問題集　N5～N3
参考図書:『みんなの日本語I』『みんなの日本語II』『新完全マスターN3　文法』から抜粋、オリジナルハンドアウト使用。

《授業外における学習方法》

各授業後に学んだ文法事項や語彙・漢字を復習し、理解しておくこと。

《履修に当たっての留意点》

日本語能力試験はすべて選択問題ですが、答えを選ぶだけではなく、答えを導けるようにすることも大切です。そのために、選択肢を見ないでも、自分で答えを考え答えられる訓練が必要です。日々の勉強の中から、自分で考える習慣を身につけましょう。

授業の方法		内　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験の問題を解き、解き方を学び、正しく答えられるようになる。	使用教材から適宜抜粋	復習、課題の予習
		各コマにおける授業予定	N5文法(文の文法)、文字・語彙(漢字の読み・書き)		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験の問題を解き、解き方を学び、正しく答えられるようになる。	使用教材から適宜抜粋	復習、課題の予習
		各コマにおける授業予定	N5文法(文の文法)、読解(短文・中文)		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験の問題を解き、解き方を学び、正しく答えられるようになる。	使用教材から適宜抜粋	復習、課題の予習
		各コマにおける授業予定	N5文法(文章の文法)、聴解(課題理解・ポイント理解・概要理解)		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験の問題を解き、解き方を学び、正しく答えられるようになる。	使用教材から適宜抜粋	復習、課題の予習
		各コマにおける授業予定	N5文法(文の文法)、文字・語彙(漢字の読み・書き)		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験の問題を解き、解き方を学び、正しく答えられるようになる。	使用教材から適宜抜粋	復習、課題の予習
		各コマにおける授業予定	N5文法(文の文法)、読解(長文・情報検索)		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験の問題を解き、解き方を学び、正しく答えられるようになる。	使用教材から適宜抜粋	復習、課題の予習
		各コマにおける授業予定	N5文法（文章の文法）、聴解（発話表現・即時応答）		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験の問題を解き、解き方を学び、正しく答えられるようになる。	使用教材から適宜抜粋	復習、課題の予習
		各コマにおける授業予定	N4文法（文の文法）、文字・語彙（漢字の読み・書き）		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験の問題を解き、解き方を学び、正しく答えられるようになる。	使用教材から適宜抜粋	復習、課題の予習
		各コマにおける授業予定	N4文法（文の文法）、読解（短文・中文）		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験の問題を解き、解き方を学び、正しく答えられるようになる。	使用教材から適宜抜粋	復習、課題の予習
		各コマにおける授業予定	N4文法（文章の文法）、聴解（課題理解・ポイント理解・概要理解）		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験の問題を解き、解き方を学び、正しく答えられるようになる。	使用教材から適宜抜粋	復習、課題の予習
		各コマにおける授業予定	N4文法（文の文法）、文字・語彙（漢字の読み・書き）		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験の問題を解き、解き方を学び、正しく答えられるようになる。	使用教材から適宜抜粋	復習、課題の予習
		各コマにおける授業予定	N4文法（文の文法）、読解（長文・情報検索）		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験の問題を解き、解き方を学び、正しく答えられるようになる。	使用教材から適宜抜粋	復習、課題の予習
		各コマにおける授業予定	N4文法（文章の文法）、聴解（発話表現・即時応答）		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験の問題を解き、解き方を学び、正しく答えられるようになる。	使用教材から適宜抜粋	復習、課題の予習
		各コマにおける授業予定	N3文法（文の文法）、復習1		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験の問題を解き、解き方を学び、正しく答えられるようになる。	使用教材から適宜抜粋	復習、課題の予習
		各コマにおける授業予定	N3文法（文の文法）、復習2		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験の問題を解き、解き方を学び、正しく答えられるようになる。	使用教材から適宜抜粋	復習、課題の予習
		各コマにおける授業予定	N3文法（文章の文法）、復習3		

2023　年度 授業計画(シラバス)

学　科	日本語学科(昼間部1．5年制)	科 目 区 分	応用分野	授業の方法	講義
科 目 名	問題集(中級)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	40 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年	学期及び曜時限	後期	教室名	502教室
担 当 教 員	瀬野　幸子	実務経験とその関連資格			

《授業科目における学習内容》

日本語能力試験N3に合格できるように、文法、読解、聴解、語彙を満遍なく学び、日本語能力試験対策問題や日本語能力試験に似た問題を解くことにより、日本語理解力を育成する。日本語能力試験N3に合格する為に、解き方などの技術を学ぶ。問題集を解くだけではなく、復習を入れながら、より多くの問題演習を行い、日本語能力試験の形式になれるようにする。

《成績評価の方法と基準》

1. 試験:70%
2. 出席:20%
3. 平常点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

使用教材:日本語能力試験問題集　N5～N3
参考図書:『みんなの日本語I』『みんなの日本語II』『新完全マスターN3　文法』から抜粋、オリジナルハンドアウト使用。

《授業外における学習方法》

各授業後に学んだ文法事項や語彙・漢字を復習し、理解しておくこと。

《履修に当たっての留意点》

日本語能力試験はすべて選択問題ですが、答えを選ぶだけではなく、答えを導けるようにすることも大切です。そのために、選択肢を見ないでも、自分で答えを考え答えられる訓練が必要です。日々の勉強の中から、自分で考える習慣を身につけましょう。

授業の方法		内　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験の問題を解き、解き方を学び、正しく答えられるようになる。	使用教材から適宜抜粋	復習、課題の予習
		各コマにおける授業予定	N3文法(文の文法)、復習4		
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験の問題を解き、解き方を学び、正しく答えられるようになる。	使用教材から適宜抜粋	復習、課題の予習
		各コマにおける授業予定	N3文法(文の文法)、復習5		
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験の問題を解き、解き方を学び、正しく答えられるようになる。	使用教材から適宜抜粋	復習、課題の予習
		各コマにおける授業予定	N3文法(文章の文法)、復習6		
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験の問題を解き、解き方を学び、正しく答えられるようになる。	使用教材から適宜抜粋	復習、課題の予習
		各コマにおける授業予定	N3文法(まとめ)		
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	これまでに習った文法、語彙、漢字を見直し、復習し、適切に使えるようになる。	ハンドアウト	復習、課題の予習
		各コマにおける授業予定	総まとめ		